

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016		
法人名	医療法人社団一就会		
事業所名	グループホーム湯と里		
所在地	静岡県伊豆の国市長岡953-1		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2290800016&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、ご利用者一人一人を大切に、細かい介護と家族への伝達共有に勤めています。家庭的な雰囲気の中で日々落ち着いて過ごせるように支援することで、笑顔のある生き生きとした生活を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名「湯と里」の通りゆったり優しいホームである。会話が不自由でも職員の声掛けにゆっくり応じ、労いと共にユーモアでその場を和ませるお年寄りの力に感服する。利用者同士の支えあいも心地よく、元気な頃のお人柄が思われ、そんなやり取りを職員がさりげなく支えている。先ごろ103歳と100歳の利用者を見送られたが、職員は身近にいた方の喪失感を引きずりつつも、隣接する病院の医師と連携して十分力を尽くせたであろうことが窺がえた。加齢による重度化の中で一人ひとりに十分対応できているかを今の課題としているが、奥の深い課題、知恵を絞り工夫を重ねていただきたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識して職員全員で考え、利用者の方々の日々の変化を共有し、適切な配慮が出来るように、毎月スタッフ会議を開催(職員全員参加)。また介護日誌、伝言等で取り組んでいる。	管理者はホーム名「湯と里」の由来とそれに因む理念「笑顔で優しくゆっくり取組み、その人の一瞬一瞬に寄り添って行きます」について入職時や日々のミーティングで話しており、職員も意識して具体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園児との交流。近くのスーパーへの買い物。地域のお祭りへの参加。地元出身の看護学生の実習受け入れなど。	地域の方々は母体病院の関係者という認識の下、顔を覚えていただき、お祭りや地域防災訓練に参加交流している。利用者の親戚が近所に住んでいることから情報も得やすく地域密着型が功を奏している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会への参加等を通じて認知症の方の理解や支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価が毎年行われていますが、その都度評価への取り組みや報告を行っている。	年間の予定日を決め、定期的な開催が実現した。市職員や地域への呼びかけで協力が得られ、感染症等の話や、介護保険関連のアドバイス、また世間話等率直で有意義な会議が蓄積されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に市町村担当者に取り組みなど伝え、必要時には市との連携も視野に働きかけている。	管理者は介護保険実地指導等市職員との接触の機会にもアドバイスを求めたり、問いかけたりしながら連携に努めており、行政と協力しながら問題の洗い出しやサービスの底上げを図るよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を開き勉強を行っている。一人業務時に利用者様の状況に応じ、対応しきれない時はやむを得ず施錠することはある。	職員は研修により身体拘束についての正しい認識を持ち、「拘束」は不要とする支援に努めている。動きが激しくなった利用者職員が沿い続ける姿や利用者同士が気遣う姿が確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については常日頃より意識してケアにあたっており、虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方がおり、理解を深めるため、研修に参加し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に明示している。又家族との面談は重要視して充分におこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。面会時の意見、誕生会などリラックスした雰囲気の中で出された意見もスタッフ間で共有し、サービスに反映させるようにしている。	「湯と里だより」が定期刊行となり、個々の様子を報告する欄も設けられて家族の安心を誘っている。家族が訪問の際には意向を伺い、また職員が受けた質問要望は管理者へ通し、全員で検討して反映に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞く事も多々あるが、月に一度のスタッフ会議には、全員参加し、話し合い、職員の提案に耳を傾け改善出来ることは受け入れお互い理解している。	職員にもゆったり優しい雰囲気の中、毎月の会議や随時のミーティングで意見を出し合っている。勤務体制はできる限り希望に沿っている。新採用の職員も提案や具申をして全員でサービスの向上に取り組んでいる。	今回の自己評価については職員の関わりが少なかった。職員が自己の介護を客観的に見直すことでスキルアップを図る機会と捉え全職員での取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで職員への経営に関しての意識付けを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受けた研修に対してスタッフ会議で報告するような機会を設け、勉強し知識を共有できるようにしている。また自発的な自己啓発の研修などを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時の職場実践の受け入れなどを行っておりサービスの質の向上を図れるような意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に見られた時や、電話があった時に困っている事や、不安な事を相手の立場に立って考え、援助していく方法を説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安に対しての意向の理解に努め、職員全員で共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や家族の思い状況を確認し、改善が図れるようにしている。サービスや介護全般についても助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることの参加を働きかけ、お互いが和やかに生活できるような関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時などに食事介助やトイレ誘導、病院受診の同行等をおこなって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らすなじみの知人や本人の生家などに出かける機会を作り、つながりを継続できるような支援をしている。	家族が遠方である利用者が多いが、折々に面会に来てもらったり、地域に住む利用者の親族に関わってもらおう等積極的にアプローチをして快い協力を得て、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、話題を提供したり、会話が弾みみんなが楽しく過ごせるように、時には仲介役になり、コミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のところへ出かけることや、その家族の方とも様子などをうかがい相談ごとなどを傾聴している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情の中から本人の暮らし方や意向希望等を汲み取り、職員同士で話し合いを持ち本位にどうよりよく添えるかを確認するようにしている。	入居前の経歴等の情報を家族等から聞き、月1回開催のスタッフ会議等で職員間で共有するとともに、日常の会話や行動、特に表情に注意して利用者の思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	周囲の情報が少ない時は、本人や家族から継続的に引き出すような会話や機会を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、その日の体調や気分、日々の言動など本人の状況や状態を確認し、職員で情報を共有してケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。日々の話し合いや、月一回のミーティングの中で職員の意見交換やカンファレンス等をしている。	職員全員参加で月1回開催するスタッフ会議や、随時実施するミーティングの中で、家族等の意見や要望も聞きながらカンファレンスを行い、3ヶ月に1回あるいは随時実施する介護計画の見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の状況に応じ、通院などに必要な支援に対し臨機応変に対応して個々の不安の解消を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ出掛けたり、地元のお祭り、民生委員が協力される地域の催し物など把握して出かけるようにして、会話を楽しむ機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、今までの主治医へ受診の支援をしている。隣接する協力医療機関へは、ホーム職員が付き添う。又必要に応じてご家族が希望するかかりつけ医を受診しています。	利用者全員が隣接する母体病院をかかりつけ医とし、職員が通院介助をしている。同病院院長が朝夕往診し、夜間の受診も可能である。かかりつけ医以外を受診する場合は家族等が同伴している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック、体調や表情の変化などに注意を払い、早期発見に取り組んでいる。看護師に相談し、かかりつけ医につなげることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提出しており、入院中の様子などは医療関係者やご家族に確認しながら、退院後の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方など、ご家族と話す機会を持ち、ホームでできることなどを説明しながら職員全体でも方針を共有している。	「重度化した場合の医療体制指針」を作成し、この指針を含む医療連携体制について家族等の同意を得ている。この指針と体制についてスタッフ会議等で職員全員に説明し、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急対応などマニュアルを整備して周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接されている病院と一緒に年2回避難訓練をしている。近隣の住民の協力も得ている。	年2回の地域の防災訓練に参加し、避難訓練も実施している。母体病院と共同で行う防災訓練には近隣住民も参加し、防災設備の点検や使用訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを常に考え、さりげない言葉かけや対応を心掛けている。書類についても書庫管理している。	理念の「笑顔で優しくゆっくり取り組み…」のとおり、利用者に対して年長者への敬意を払いながら、ゆとりを持って介護を実施している。個人情報にはキャビネットに格納し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話には常に耳を傾けている。ご本人が答えやすく選びやすい問いかけをして自分で決めるような場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の方のペースに合わせて過ごして頂けるように心掛けています。但し、利用者の方の体力低下等により職員が状況に応じて声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や、外出時の身だしなみには、配慮しており、鏡を見ながら一緒に考えるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のそれぞれの能力に応じてできることをしていただいております。職員と一緒にいる。手作りのおやつや、レクリエーションでの食事会等、食事が楽しみなものになるようにしている。	母体病院の厨房で管理栄養士がホーム用に作成したメニューに従い調理された食事を、利用者、職員と一緒に楽しんでいる。誕生会、雛祭等の特別食はホームの厨房で職員が利用者の希望を聞き準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養やカロリーを考え、利用者の方々の好みを取り入れた献立を考え、個々に合わせた形態で提供している。水分や食事量は把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声掛け見守りをし、できない方には毎食後のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握してさり気なくトイレ誘導をしている。排泄チェック表で自立への支援をしている。	排泄チェック表や毎日の見守りの中で利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを理解し、定期的な声掛けやさりげない誘導で排泄の自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分補給量は把握しており、少ない方に、ゼリーなど目先を変えて提供して摂取を促している。毎朝の牛乳やヨーグルトの提供。又、体操、歩行運動、お腹のマッサージ等を日々行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決めていないが、一人ひとりの気持ちを確認したうえでタイミングなどを考えて入浴を楽しんでいただいている。	夜間を除き、好きな曜日の好きな時間に全員が少なくとも1日おきに入浴を楽しむことができる体制としている。入浴を拒む利用者には声掛けの時間を変えたり、職員を変えたりして入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠れるように日中の活動性に配慮はしている。早く休まれる人は、休まれるし、個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや処方箋のコピーを個々でわかるように整理している。職員は内容の把握ができるようになっており、服薬の確認をきちんとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々の個々の能力に合わせて、ゲーム、散歩、外出、行事を行って行きます。又、出来ることはなるべく手を出さず見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、利用者さんの体調や希望等を確認考慮しながら、臨機応変に対応して外出できるよう支援している。	近隣の公園や敷地内の足湯へ日常的に散歩に出掛けるほか、法人内の大型車の手配が容易であるため、花見、いちご狩り等ドライブやファミリーレストランへの外出に全員参加で気軽に行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望に沿えるように支援を行っています。ご家族よりの電話を取り次ぎ会話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが作られた作品を壁など目に付く位置へ展示し、季節の花などを飾り、匂いや視覚で達成感や季節感を感じていただくようにしている。	廊下、居間が広く、トイレも6ヶ所あり、ゆったりとしている。居間には天窓があり、陽光が明るく過ごし易い共用空間となっている。また、壁には季節感のある利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファや椅子に気軽に腰掛けられるようにしている。テレビを見たり、会話をしたり、一人でくつろげるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた家具を置いたり、危険のないように配慮している。専用テレビを持っていただいている方もあり、ご本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	居心地良く過ごせるように、時計、テレビ、座卓、椅子、タンス、家族の写真、ぬいぐるみ、仏壇等、馴染みあるものや使い慣れたものが多数持込まれており、自室に近い雰囲気が出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が混乱しないように場所がわかるような工夫をしている。また利用者の身体状況に応じ、手すりやテーブル等を利用して、移動し易くなるようにしたり、危険を回避させ安全な環境づくりへの配慮をしている。		